20数年ぶりによみがえる江川耕地

復田から収穫までの281日

20数年ぶりに米づくりを行うには、ただ田んぼを耕せばよいというものではありません。水路や農道なども整備する必要があります。また、場所によっては田んぼが深くて、機械では田植えができないかもしれません。いろいろな問題を解決しながら自然観察会も行い、お米を作ることができました。

⑪
用水路の浚渫

復田場所の草刈り

江川地区の復田作業の第一歩は、平成18年11月21日、枝や落ち葉などで埋まっている用水路の浚渫（水底をさらって土砂などを取り除くこと）工事から始まりました(①)。

同27日、管理する(株)野田自然共生ファームでは、復田する場所の草刈りを行い、今後の作業の順番を決めるために水田の状況を調査(②)。なかなか、復田作業が手ごわそうな湿田です。

年が明けて19年2月20日、用水路の浚渫工事が完了し、崩れていた農道を復元(③)。これで、農作業がしやすくなります。

4月10日、揚水ポンプが動き出し、井戸水が用水路に満ちてきました。田植えの準備でトラクターが田んぼに入り、耕運をしました。

同13日、20年以上も耕作されていなかった田んぼに、再び水が入れられ、水が満ちた田んぼには、さっそくサギとカモがエサを探しにやってきました。

同27日、代掻き(④)を行い、田植え前の田んぼをきれいに均します。ヨシの根が張っていたので、代掻きの前に、粗代という作業を行いました。

⑩
みんなで刈り取りました

刈り取り作業開始